

# 中国と中国人の人間関係のスキーマの獲得と発達

—PAC 分析による構造と形成要因の検討—

内 藤 哲 雄

キーワード：中国, 中国人の人間関係, スキーマの獲得と発達, PAC 分析

## Schema Acquisition and Development about China and Chinese Interpersonal Relationships: PAC Analyses on Cognitive Constructs and Factors of Formation

Tetsuo NAITO

**Key words:** China, Chinese interpersonal relationships, schema acquisition and development, PAC analysis

### 問 題

われわれは、自分自身について、また他の人々や対人関係について、さらにはわれわれを取り巻く社会状況や世界について、どのように解釈すべきかの暗黙の理論を持っている。日々の生活の中では、それらにほとんど気づくことなく、自動的に利用している。世界に関するわれわれの理論、世界を理解するための認知的枠組みは、世界についての知識を組織化する認知的構成物 (cognitive construct) であり、スキーマと呼ばれる (Markus, 1977; Taylor and Crocker, 1981)。

Fiske & Taylor (1991) は、スキーマの獲得と発達に関して次のように要約している (pp.147-149)。スキーマは、実際に対象に遭遇しかかわることによってだけでなく、抽象的な一般的特徴について単にコミュニケーションするだけでも発達させられる。人々が実際に経験して獲得したスキーマを、特定の状況を超えて一般化させるとき、それはより抽象化されたものとなる。抽象化への変容は、たった二度の体験であっても共通点を知覚し始めることによって生じる。人は対象について知れば知るほど、その対象に関するスキーマを詳細に描写できるようになる。またスキーマは、発達するにつれて強固に組織化される。知識が追加され蓄積されることで、完璧ではないけれども、次第に柔軟で適応的に対応できるものとなる。使い慣れたスキーマは、知識が縦横に豊に相互連結された内的構造として成熟し、簡単に想起できるようになる。そして、スキーマが発達し、現実場面で利用されるにつれて自動的に作動するようになり、意識的な負担は軽減され、他のことに注意を集中できるように

なる。

上記のように、スキーマは、日常生活の中での多様な経験や伝聞により獲得され、発達しており、暗黙裏に作動するスキーマの構造やその形成過程を、実験的方法や通常の調査研究法で探るのは困難である。箕浦（1997）は、USA（以降、アメリカと略称）からの帰国子女の文化葛藤を事例研究法により分析している。アメリカの人間関係のスキーマが獲得され、日本帰国後に学友たちとの交流の中で、アメリカと日本の人間関係スキーマの違いにより葛藤に直面するまでのプロセスが詳細に分析されている。この方法は、長期間にわたる質的な変化過程を論考するのに有効な方法である。しかしながら、膨大な情報から何を選択し、どのようにまとめるかに関しては、研究者の直観能力や構成力に依存しがちであり、主観性が高いだけでなく、熟達した人にしかできない部分が多い。研究者自身の感性や直感に依存するのではなく、調査対象者（被検者）自身が暗黙裏に持つスキーマを利用する自由連想を出発点としながら、操作的手続と統計解析を援用し、あたかもカウンセリングのように被検者自身が感覚し感じるものに寄り添いながら聴取していくことで、暗黙裏の認知構造を探索していく単一事例研究法として、内藤（1997, 2002）によって開発されたPAC分析がある。

既述のように、スキーマは、日常生活の中での多様な経験や伝聞により、暗黙裏に獲得され、発達していくものであり、実験や質問紙調査によっては、獲得され変容していく多様なプロセスを活写することが困難である。現実存在する対象でありながらも、名前すら知らないとか、名前は知っているがわずかな知識しかないという典型が、外国やその国の人々の人間関係についてのイメージである。情報、資金、物資、人々の交流がグローバル化された今日では、観光ですら外国を訪れない人であっても、世界の多くの国と人々にかかわることが現実となっている。そして、異文化適応に関する多くの研究が明らかにしているように、偏った情報や体験から偏見のステレオタイプが形成され、不適応な交流が生じることが少なくない。外国とその国の人々の人間関係についてのイメージの形成と変容は、スキーマの獲得と発達を吟味するための好個のテーマであるというだけでなく、直面する今日的な、早急に解明すべき課題であるといえよう。PAC分析ならば、訪れたこともなく、わずかな知識しか持ち合わせない外国とその国の人たちの人間関係のスキーマが、読書や伝聞、当該国の人との交流を含めた個人的体験によって形成され、エピソードを含めた知識の全体が個人構造（個人態度）化されるプロセスを解明できると考えられる。

本研究は、上述のような問題意識を背景として、日本との長い交流の歴史を持つ中国（中華人民共和国）を取り上げ、国名については知っていても訪問したこともなく、その国の人々との交流経験が乏しい日本人と、中国への関心が深く、中国人との親密な交流経験を持つ日本人を対象として、国についてと人間関係についての2つのスキーマの獲得と発達をPAC分析により詳細に吟味し、比較することを目的とした。

## 方 法

**被検者** 被検者Aは、教員、男性、30歳。中国人との交流経験なし。中国について関心がなく、漫画の『三国志』で知る程度。被検者Bは、大学4年次生、男性、22歳。20歳の時に、1年休学してUSA ニューヨークに語学留学（語学学校通学4カ月、インターンシップ2カ

月、再び語学学校通学4カ月)。留学期間中間のインターシップでの勤務先(リゾートホテル)で、インターンシップのためだけに訪米して勤務していた中国人女性25歳と1カ月交際。中国訪問経験なし。PAC分析実施の1カ月程前に、旅行会社への就職が内定。

**連想刺激と手続** PAC分析は、被検者1名と検査者1名が机を挟んで向き合って座り、以下の手順で実施された。連想刺激は文章とし、中国については、「あなたは、〈中国(中華人民共和国)〉についてどんなイメージが浮かんできますか? 頭に浮かんできたイメージや言葉を、思い浮かんだ順に番号をつけてカードに記入してください。」と口頭で教示し、文章も提示した。ここで、被検者の前にあらかじめ置かれていたカード(縦3cm、横9cm)に、想起された順に想起番号と連想内容を記入させた。

中国人の人間関係については、「あなたは、〈中国人(中華人民共和国の人)の人間関係〉について、どのようなイメージが浮かんできますか? 頭に浮かんできたイメージや言葉を、思い浮かんだ順に番号をつけてカードに記入してください。」とし、上記の「中国イメージ」と同様に、口頭で教示し、文章も提示した。ついで、カードに想起された順に連想内容を記入させた。

「中国のイメージ」と「中国人の人間関係のイメージ」のいずれもの連想反応を得て、今度は、「中国のイメージ」の連想反応のカードを、内容がプラスであるかマイナスであるかに関係なく、重要だと感じられた順に並べ替えさせ、重要順の番号を赤色で大きく記入させた。次に、項目間の類似度距離行列を作成するために、ランダムに全ての対を選びながら(番号の組み合わせは重要順)、直感的なイメージの上で、どの程度類似しているのかを、1:「非常に近い」~7:「非常に遠い」の7段階尺度で評定させ、類似度距離行列を完成させた。引き続き、「中国人の人間関係のイメージ」についても同様の手順で実施した。

ついで翌日の第2回目の面接までに、それぞれの被検者のイメージごとに作成された距離行列に基づきウォード法でクラスター分析し、出力されたデンドログラムに連想項目を記入したものを2部用意した(Figure 1~4参照)。

第2回目の面接では、連想項目が記入されたデンドログラム1枚を被検者に渡し、検査者はもう1枚を見ながら、以下の手順で、デンドログラムの結果について被検者のイメージを聴取した。まず、検査者がまとまりをもつクラスターとして解釈できそうな群ごとに各項目を読み上げ、群全体から連想されるイメージやそれぞれの項目が併合された理由として感じられるものについて質問した。クラスターと考えられる項目群から生じるイメージを尋ねるのは、連想反応のまとまりである項目群(クラスター)を第二次の連想刺激として連想させることで、内面のより深くを探索していくためである。各群が終了した後、今度は群間を比較させてイメージや解釈の異同を探索させた。この後さらに、項目単独から連想されるイメージ内容について報告させた。これらの作業に続いて、各連想項目単独でのイメージがプラス、マイナス、どちらともいえない(0)のいずれに該当するのかを回答させた。

## 結果と考察

ここでは、中国について関心がなく、中国人との交流経験のない被検者Aと、中華街で食事をする程度で中国訪問の経験はないが、語学留学中に中国人女性と交際したことのある被

検者Bの、それぞれの被検者ごとに「中国」と「中国人の人間関係」の2つのPAC分析の結果について考察する。被検者AとBとを併せての考察については、〈総合的考察と結論〉の項で言及したい。

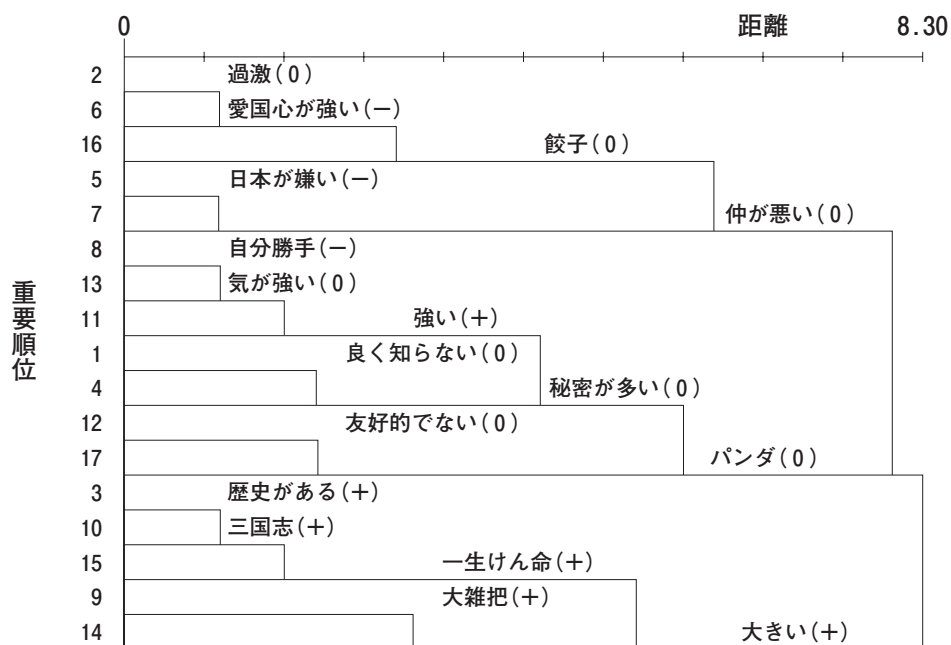


Figure 1 被検者Aによる「中国」のイメージ

1) 左の数字は重要順位

2) 項目の後ろの( )内の符号は単独でのイメージ

### 〈被検者Aによるクラスターのイメージ〉

#### 「中国」についてのイメージ

項目単独での+-イメージを、項目数が多いので重要度の高い順にほぼ1/3だけ取り上げると、良く知らない、過激、歴史がある、秘密が多い、日本が嫌い、愛国心が強い、の6項目で、+が1項目、0が3項目、-が2項目で、0項目の多さからやや距離を置いた見方をしていること、いくぶんか-傾向の方が強いことがうかがえる。第1クラスターでは、0が3項目、-が2項目であった。第2クラスターでは、+が1項目、0が5項目、-が1項目。第3クラスターでは+が5項目。全体としては、+が6項目、0が8項目、-が3項目で、やや+の方に傾いた印象を持っているといえよう。

クラスター1は、「過激」～「仲が悪い」の5項目：(左手で頭をかきながら)餃子だけが違うんですけど、餃子を除けばスポーツで、僕が観るスポーツで感じる中国と日本の関係に対する印象。たとえば、サッカー、体操、……だけか、だけです。 (Q: 他にはどんなイメージが浮かんできますか?) ないですね。特にサッカー。日本と中国の応援する姿とか、実際にプレーする選手間のやりとりというか。そんな感じですね。餃子だけがどうしても合

わないんですけど。

クラスター2は、「自分勝手」～「パンダ」までの7項目：この中国全体に対して持っている自分の印象ですね。非常に漠然としていて、まあ一番よく表しているのが「良く知らない」という項目。典型的な、全体的にこう、あまりいい意味で自分は使っていない。まあ、パンダが一番最後の距離になっている（筆者注：一番最後に結節され、まとまる）のは、パンダはまだましというか、パンダはあまり好きじゃないですけど。否定的な固まりとか、否定的な中国に対する勝手なイメージですね。……それぐらいですかね。

クラスター3は、「歴史がある」～「大きい」の5項目：…まあ、いいイメージ。まあ、あー、中国に対してリスペクトするというものがまとまっている。努力というか、こう、一生懸命というか、積み上げてきたというか。……えー、日本と比べて「すごいなあ」と思うイメージ。たぶん自分が好きなんでしょうね。このまとまりが。それぐらいですね。

クラスター1と2の比較：違いはあんまりないですね。いや、違いは、上のクラスター（クラスター1）は、実際に自分がテレビなどで目にしていて情報から持っているイメージの固まり。対して下の固まり（クラスター2）は、何か、自分で勝手にそう思っているというか、うーん、情報が基になっていないところが違うところです。同じところは、中国に対するイメージ。まあ、否定的なところですね。あまり好きでないイメージ。…それぐらいですね。

クラスター1と3の比較：違いは、上（クラスター1）がネガティブというか否定的なイメージですね。対して、下（クラスター3）が肯定的な、うらやましいというか、イメージ。あまりに大きい、全く違う点です。同じところは、……どっちも、それなりの情報を基にして、出てきているイメージであるところが同じところですね。他にはないですけど、やっぱり餃子だけが、なぜか浮いている感じがします。

クラスター2と3の比較：違いは、真ん中（クラスター2）の固まりは否定的ですね。同じところは、……ないですね。同じところは、書いてある、中国に対するイメージぐらいしかなくないぐらい。同じところを探すのが苦労する感じです。……これぐらいですね。

<補足質問> 過激→ひどいというか、<sup>あつ</sup>熱いというか、手がつけられないイメージですね。それぐらい。愛国心が強い→うーん、本当はいいことなんでしょうけど、行き過ぎるとださいなど。あと、うとうしい。餃子→おいしい。日本にもある。安い、お手軽、ぐらいですね。日本が嫌い→別にというか、そこまであからさまにしなくてもいいんじゃないか、……ぐらいですかね。なんで、そんなに嫌いなのか。仲が悪い→別に結構。近寄りたくもあんまりない。それでいいんじゃない。ぐらいですね。自分勝手→わがままというか。わがままぐらいですね。気が強い→後ろに引かない。負けない。一生懸命。自信があるとかですね。強い→上手というか、うまいことやっている。堂々としている。……ぐらいですね。良く知らない→真っ白というか、情報が無い。体験がない。そんなに知りたくもない。ぐらいですね。秘密が多い→嘘くさいというか、ずるいというか、せこせここというか。まあ、あえて知りたくもない。というところですね。友好的でない→また、だからどうだろうという、どうでもいい感じです。パンダ→外交の道具。「そんなにかわいいのか?」っていう、別に欲しくない。歴史がある→長い、一生懸命、すごい、ぐらいですかね。三国志

→おもしろい、好き。がんばれば報われることもある。広い。人とのつながりは大切だ。一生けん命→がんばる。そうありたい。自分もそうありたい。ぐらいですね。大雑把→それでいいんじゃないの。悪くない言葉。そういう風にして生きていきたいなあ。というイメージですね。大きい→まあ理想的。そうなりたい。……ぐらいですね。あと、国土がおおきい。人口も多い。こんなぐらいですね。

＜終了後の雑談での聴取＞

中国については、歴史、地理、観光などの書籍を読んだことがなく、漫画の『三国志』の影響が強いとのこと。

### ＜被検者Aの中国イメージの総合的解釈＞

連想項目の+-イメージからは、感情喚起が少なく、関与度の低さを示すが、やや+の方に傾いた印象を持つスキーマであることが示唆される。

クラスター1は、中国と日本の関係での印象で、特にサッカー選手のプレーとか応援する姿からテレビで感じたもの。「餃子」は、「日本にもある」「お手軽」なものを象徴していると解釈すると、日本のお茶の間でも見られる日中のサッカーの試合は身近もので、中国が「過激」で「熱くて」「手をつけられ」ず「愛国心が強い」こと、「日本が嫌い」で「仲が悪い」ことを「あからさまに」表出している。クラスター1は、**＜過激で愛国心が強く、日本と仲が悪い国＞**と命名できよう。

クラスター2は、被検者Aが、「情報がなく」「体験がなく」「良く知らない」けれども、中国全体に対して持っている、「自分勝手」「わがまま」で「気が強く」「後にひかない」で、「秘密が多い」し「嘘くさく」「ずるく」「こせこせ」しており、「友好的でない」が「パンダ」を「外交の道具」として使っていると感じる個人的イメージである。このクラスターのイメージは、**＜自分勝手に、気が強く、友好的でないが、パンダを外交の道具とする、良く知らない国＞**であると解釈できよう。

クラスター3は、「中国に対してリスペクトするものがまとまって」いて、「三国志」に代表されるような「一生懸命積み上げてきた」「歴史がある」し、「大雑把」で大らかな生き方をしている「国土が大きくて人口の多い国」のイメージである。**＜歴史のある大きなリスペクトされる国＞**のクラスターであると呼ぶことができよう。

第1クラスターの「仲が悪い」と第3クラスターの「大きい」を結節する「パンダ」は、被検者Aにとっては「欲しくもなく」「そんなにかわいいのか?!」と感じるものであるが、否定的イメージの強い第1と第2クラスターと、肯定的なイメージだけから成り立つ第3クラスターを結合する要となっている。

### 「中国人の人間関係」についてのイメージ

項目単独での+-イメージは、第1クラスターでは、+が2項目、-が2項目で、第2クラスターでは、+が1項目、0が1項目で、第3クラスターでは0が1項目である。全体としては、+が3項目、0が2項目、-が2項目で、項目数も少なく、関与度が低く、葛藤状態にあることを示唆している。

クラスター1は、「せまい」～「仲良し」の4項目：（頭をかきながら）せまい、広い、排

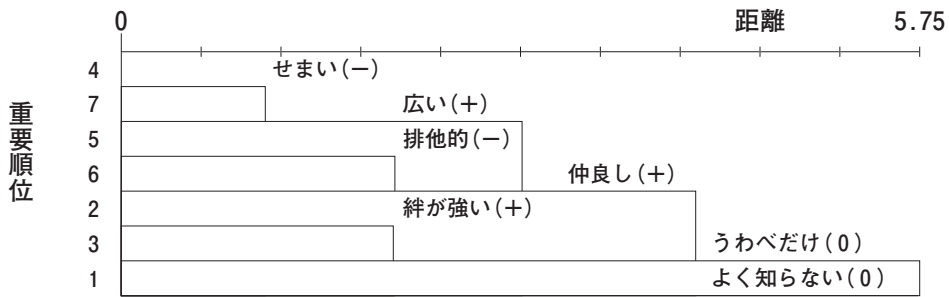


Figure 2 中国人の人間関係のイメージ

1) 左の数字は重要順位

2) 項目の後ろの ( ) 内の符号は単独でのイメージ

其他的, 仲良し。仲良しまで入っていましたっけ。……これらに共通するイメージか。なんか相反しているのが二括りというか, せまいに対して広い, 排他的に対して仲良しというのが, 二対, 二組, 一对二組か。全部一括りにして, …そうか全部か, ………ああ, そうすると, (左手で頭を支え) 相反的なイメージ。あえて全体につけるとすると, そうなりますかね。(Q: これら4つを見ていて, どんなイメージや言葉が浮かんできます?) 統一性のない, ……えー, ポジティブ, ネガティブ, それの組み合わせというか。それしか浮かびませんね。4つ一気に出たときに共通性がないので。(Q: それではどんな内容でできていると思いますか?) 内容? 当たり障りのない, …うーん……, やっぱりさっき言ったことと同じになりますよね。せまさ, 排他的と仲良し, …なので。4つのイメージは, せまいの反対は広くて, 排他的の反対は仲良しとしかいえない。

クラスター2は, 「絆が強い」と「うわべだけ」の2項目: うーん, 見せかけの絆の強さというか, 表向きはすごくうまくいっているとか, ……だけど互いの腹の中にある本心は絆が弱いし, お互いを信頼してはいないとか。ただまあ, この2つの共通点, 共通ではなく連想することですね。はい。(それ) ぐらいですね。(Q: それではどんな内容でまとまっていると思いますか?) 中国人の人間関係という連想の中にはめ込んでもいいものなのか, それとも辞書的關係で考えてもいいものかわかるんですね。(Q: わかるって?) たとえば, 絆が強いとうわべだけ。中国人の人間関係はうわべだけということを考えればいいのか, それとも絆が強い, うわべだけという2つの純粋な意味を見たらいいのかということが, つまり中国人の人間関係という枕詞をつけて考えるのか, それともつけずに考えるのが気になっています。(Q: この言葉だけから浮かんでくるものは?) 腹黒さとか不信感とか。こちらが持つ不信感, 相手に対して持つ不信感, 意味のないもの, 価値のあまりないもの。だいたいそう言うことですかね。(Q: 他には?) 他には…他はないですね。さっき言った不信感とか, 意味のないものに集約されている感じですね。

クラスター3は, 「よく知らない」の1項目: よく知らない, 経験がないとか, 知識がないとか, 勉強してなくて知らないというよりは, そもそも知らなくていいものだから, あえて知らないという, よくわからないと言うことではなく, よく知らない。似ているけど, 経験がないから相手をよく知らないと言うこと。ですかね。1個(1項目)だけなので, それしかならない。

クラスター1と2の比較：どんなところが似ていて、どんなところが違うか？ 同じところからいきますと、やっぱり一貫してないですね。やっぱり。せまいと広い。反対同士を並べて、排他的も仲良しも反対にとれる。絆が強い、うわべだけでも、ネガティブとポジティブが並んでいるというか、お互いに1つにまとめるのは難しい2つだな、というのが似ているところですかね。

違うところは、せまい広いと、排他的というのは真逆的、全く真反的な対になっているんですけど、絆が強い方だとすれば、その反対は絆が弱いになるはずなんですけど。対応するのはうわべだけということなので、上（クラスター1）のまとまりと下（クラスター2）のまとまりは、上は直接的な正と負を表しているのに対して、下は必ずしもそうではなくって、よりこう、下の方が意味が限定的、あくまでさっきのせまい広い、排他的仲良しに比べてですけど。やっぱり下の方が指し示す度合いは、範囲がせまいような気がします。……以上ですかね。似ているところと違うところですかね。

クラスター1と3の比較：同じところという、……こう知識がないというか、せまいにしても広いにしても、排他的にしても仲良しにしても、意味が広いので、どういう風にも使えてしまう。よく知らないという中身のなさで共通しているという風に思います。

違うところちゅうのは、全く違うという、よく知らないというのは、こう、人が知識を持っていないという、一つの状態を指している言葉なんですけど、一番上（クラスター1）がせまい広い、排他的仲良しというのがあって、2つが一つになっているという関係がまああるので、それが限定的の違いですね。はい。

クラスター2と3の比較：同じところちゅうのは、……疎遠な感じがして、あまり嬉しくないものを表現している。そういう、色で言えば灰色。汚い色でもないんだけど、だと言って元気になる色でもない。その点は似ているところですね。毒にも薬にもならない感じで。でもできるなら、あまり飲みたくなくなるようなイメージが共通している。

違うところですけど、やっぱり絆が強い反対はうわべだけが対をなしているようにも考えられるという集まりに対して、よく知らないというのは対になっていないので、そういう点で大きく違う。というところですね。他はないです。

補足質問：せまい→苦しいとか、青い、色の青いとか、元気がないとか、元気が出ない。早く出たいとか。でも少し落ち着くという、そんなイメージが浮かびますかね。せまいということは、全部が全部悪いわけではない。けど、全体的にポジティブでないことだけはたしかですね。広い→広いは、度量があるというか、こー、…レパートリーがたくさんあるというか、やさしいとか面倒見がよいとか、気分的にまあ一色で言えば、だいたいちゅうか、暖かいイメージがありますけど。あんまり広いというのも、なんていうか、暮らしにくいというか、つまらないというか、どうしたらよいか困ってしまうイメージもあります。はい。排他的→排他的もあまりいいイメージではない。いいイメージではないと言うことが先行していて、たとえばいじめとか、自分たちの弱いところを隠す、隠すためとか。色で言ったら、藍色のイメージがある。暗いイメージがある。ですけど、どっかこの言葉にも、自分を守ろうとする努力する姿も連想されますね。以上ですね。仲良し→仲良しは、色で言ったら桃色というか人間同士がわいわいと話している。うん、やさしいイメージがします。けど、これもあまり行き過ぎたら窮屈だな、という両方のイメージがありますね。はい、以上です。



絆が強い→いいイメージですね！ 仲間関係がしっかりして信頼しあってて、集団の統制がとれているという、バランスがとれている。横一線でみんなが動けるといふか、統制がとれている。いいイメージが浮かびますが、これも強すぎると気持ち悪いといふか、邪魔といふか、自由でないというイメージがあります。それぐらいですね。うわべだけ→嘘つきといふか、信頼しないといふか。それだけやっておけばとりあえず大丈夫といふか、こーあまり暖かくはないイメージですね。ですけど、大なり小なり、みんなうわべで生きるの、必要悪といふか、必要な、こう、スパイスといふか。悪いだけのイメージではないですね。これぐらいですね。よく知らない→白いといふか、真っ白なイメージ。何もない。かといって淋しくはない。というところですね（首を縦に振って）。

<全体について>

（Q：せまい広いは何について、排他的仲良しは何について、どんな次元で、4つが共通しているのかイメージしてください）……………やっぱ人間関係ですかね。人間関係の取り方。せまい広いは人間関係の人数ですかね？ 排他的仲良しは質の違いといふか、仲良くするか、それともしないかといふ。やっぱ質の違いですね。「せまい広い」と「うわべだけ」の関係は、やっぱ仲が良くない。うわべだけ、そんなもんかな。人間誰しも。一般的と言えれば一般的ですね。

#### <被検者Aの中国人の人間関係イメージの総合的解釈>

項目単独での+イメージからは、関与度が低く、相反する内容が想起される葛藤状態にあることが示唆されている。これは、中国人と実際に交流した体験がなく、書籍や伝聞による知識体系もなく、信念が形成されていないためではないかと考えられる。

クラスター1は、「せまく」「苦しく」「元気がない」のと「度量があり」「やさしく」「面倒見がよく」で「暖かい」イメージ、「排他的」で「苛め」や「自分たちの弱いところを隠す」一方で、「仲良し」で「わいわいと話をする」「やさしい」イメージがある。第1クラスターは、<度量の狭さと広さ、排他的と仲良しの相反的イメージ>であると要約できよう。

クラスター2は、「絆の強さ」は「見せかけ」で、「それだけやっておけばとりあえず大丈夫」という「うわべだけ」の表向きはうまくいっているが、「互いの腹の中にある本心は絆が弱いし、お互いを信用してはいない」。ですけど、「大なり小なり、みんなうわべで生きているので、必要悪といふか」「スパイスといふか」、「悪いだけのイメージではない」と回答されている。<必要悪としての、うわべだけの絆の強さ>のクラスターであると解釈できよう。

クラスター3では、被検者Aは、「経験がないといふか、知識がないといふか、勉強してなくて知らないというよりは、そもそも知らなくていいもの」という意味で、「よく知らない」と回答している。<不必要感から生じた無関心さ>のクラスターであると解釈できよう。

クラスターの結節：第2クラスターの「うわべだけ」に、第1クラスターの「仲良し」が結合し、さらに第3クラスターの「よく知らない」も結合しているのは、「うわべだけ」が全体を象徴する項目であることを示唆しており、「うわべだけ」でも問題ないと感じているのであろう。

### <被検者Aの2つのイメージの総合解釈>

被検者Aの場合には、中国についても、中国人の人間関係についても、関心や直接的なかわりがなく、それらに関するイメージはテレビのスポーツ観戦や漫画『三国志』によって形成されたものである。園田（2001）の指摘するような、中国人の面子や人間関係ネットワーク形成とその利用についての体験的理解はない。

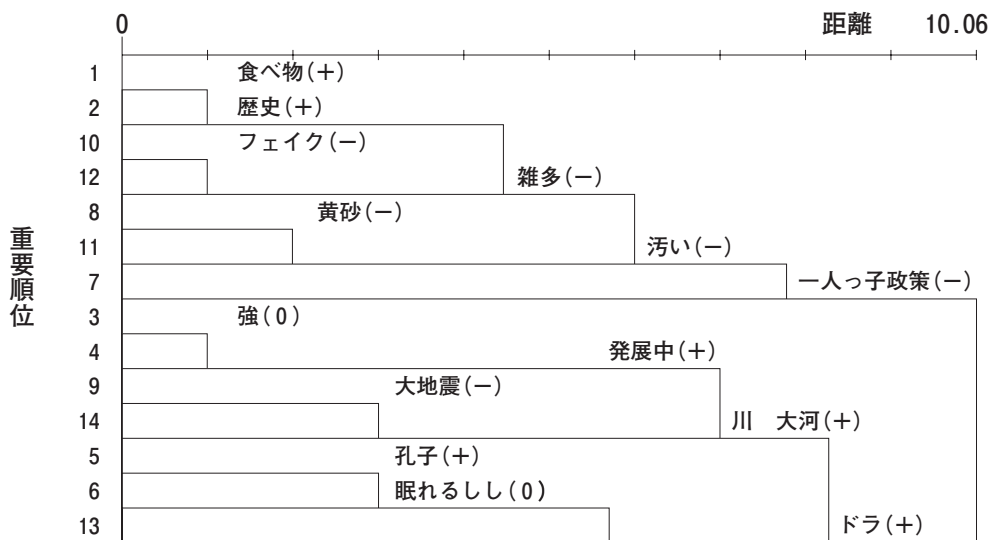


Figure 3 被検者Bの中国のイメージ

1) 左の数値は重要順位

2) 各項目の後ろの ( ) 内符号は単独でのイメージ

### <被検者Bによるクラスターのイメージ>

#### 「中国」についてのイメージ

連想項目単独での+イメージを、項目数が多いので重要度の高い順からほぼ1/3の5項目だけ取上げると、食べ物、歴史、強、発展中、孔子となり、強の0項目を除いて、いずれも+である。第1クラスターでは、+が2項目、-が5項目で、-傾向が強い。第2クラスターは、+が4項目、0が2項目、-が1項目で、+傾向が強い。全体としては、+が6項目、-が6項目、0が2項目で、葛藤状態にあることが読み取れる。

クラスター1は「食べ物」～「一人っ子政策」の7項目：……………うん……………どうでしょう？ けっこう全体的にみてもの中国のイメージ。個人というよりは、…もっと一般的な、…イメージですね。……………これはあれですか？ 全体として？（検査者応答：部分でもいいですよ）…「一人っ子政策」に関してだと、あの、僕の以前つき合っていた女性（ニューヨークでのインターンシップ中の交際相手）が、「二人目の子どもだということで、一人っ子政策に反していたので、政府にお金を払っていた」という話を聞いてなので、強く印象に残っています。あとは「食べ物」ですよね。子どもの頃からよく、中華レストランに行っていたので、あと、あのーアメリカに行ったとき（10カ月のニューヨーク滞在中）も、

チャイナタウンですとか、デリバリーでチャイニーズ・フードを食べていたので、一番食べ物が身近に感じられます。「歴史」に関していえば、日本人が最も参考にしてきた国ということで尊敬する一面もありますし、私、仏教を勉強していたことがあるので、ありますので、そういった点でも歴史は重要だと考えています。中国の悪いイメージとして「フェイク」、**「雑多」**、「**黄砂**」、「**汚い**」、「**一人っ子政策**」があげられます。中国政府が何とかしたら、黄砂くらいは日本への影響を弱められるのではないかと思います。フェイク（注：fake）、例えば商品。あとはディズニーランドの例もあります。これらは中国が元々大切にしている儒教（の精神）とは反するものだと思うので、廃止すべきというか、何とかすべきだと思います。まあ、汚いのは、致し方ないという所もあります。そんなところ。（Q：それではどんな内容でまとまっているという風に感じますか？）良いイメージと悪いイメージ。……自分の印象に強く残っている、などです。（Q：ほかにはどうですか？）……うーん……まあ、こんなところですね。

クラスター2は「強」～「ドラ」の7項目：…はあー。僕が来年から旅行業界に就職するので、世界的な中国の立ち位置という点で「強（きょう）」、「**発展中**」、「**眠れるしし（獅子）**」が出てきたと思います。あと働く中で、「**大地震（だいじしん）**」が起これば自分たち（旅行業関係者のこと）にも影響がある。（影響が）出るだろうとは考えられますし、「**川大河**」といったものは、観光という点では、…一つの選択肢となるので、頭に浮かびました。…「**ドラ**」は、アニメや映画などでよく使われているイメージがあるので、出て来ました。「**孔子**」は授業で学んだことがあり、自分の生き方の一つとして、取り入れて来ました。まあそんなところ、です。（Q：それではどんな内容でまとまっていると感じますか？）……将来関わってくるだろうイメージが多いですね。……ドラと孔子はあまり関係なさそうですけど、残り5つは働く上で意識していく必要があると思います。…はい。

クラスター1と2の比較：違う点でいいますと、私のイメージとして、下のグループがより将来に関わってくるだろうというイメージが強い。上のグループですと、今まで受けたイメージが強い。……あと上のグループですと、自分のマイナスの気持ちに関わっていると思います。フェイク、雑多、汚いなどは、自分の嫌なところ、自分の中国に対する嫌なところ、だと思います。下の方ですと、完全に感情は抜きにして、自分との関係があるものばかりです。……同じ点は、結局、自分が中国に対して持っているイメージだということぐらいです。…そんなところですね。

被検者Bによるクラスターの命名：クラスター1は「**現状関係**」。クラスター2は「**将来関係**」。全体は、「**中国印象**」です。

補足質問：食べ物→おいしい。……家族で食べる……ちょっと贅沢な。胃がもたれる。辛い。ご飯に合う。などです。歴史→古い。もっと勉強すべきだ。日本と関係している。中国四千年などです。フェイク→車、食品、ディズニーランド、卑しい、お得、…価値の低い、です。雑多→散らかっている。貧民層。安いものなど。黄砂→車が汚れる。公害、発展途上ぐらい。汚い→貧民層、カオス、砂、露天、フェイクなど。一人っ子政策→元カノ（元彼女）。お金がかかる。孤児が増える。得策ではない。強→力を持っている、世界的に。ないがしろにはできない。観光客。…面積。人。人口が大きい、など。発展中→……富裕層。…工場。チャンスがある。お金中心。エコではない。日本に似ている。ぐらいです。

大地震→四川。貧民が損をする。経済の影響。…ぐらいです。川 大河→歴史がある。観光。以上です。孔子→すばらしい。学ぶことが山ほどある。眠れるしし（獅子）→戦争。恐ろしい。……ぐらいです。ドラ→音が中国的。大きい。競技・レースで使われる。そんなところですよ。（筆者注：銅鑼／現在では船の出帆の際の合図など広く用いられる。）

### ＜被検者Bの中国イメージの総合的解釈＞

クラスター1は、重要順位1位の「食べ物」と2位の「歴史」は+であるが、他はいずれも-で、-イメージの強い葛藤状態であると解釈できる。地理的条件から「黄砂」は日本で体験であると考えられるが、英語の「フェイク」を用いていること、元カノと結びついた「一人っ子政策」がニューヨークでのことであることから、「フェイク」「雑多」「汚い」は主としてニューヨークの中華街での体験ではないかと推測される。身近で贅沢にすら感じていた中華料理の「食べ物」や日本人が最も参考にしていた国ということで尊敬する一面もあり、仏教を勉強していたこともあるので（中国の）「歴史」は重要だと考えている。反面では、露店を含め「フェイク」, 「雑多」で、「黄砂」も含めて「汚い」がある。これらの悪いと感じる面を、被検者は儒教の精神に反するものと感じている。「一人っ子政策」は、二人目の子どもである元カノの親が罰金を払っていたことに関連しており、別れに至ったこともあり、彼女との思い出が両価的（アンビバレント）であることを推測させる。被検者は、クラスター1のイメージを「現状関係」と答えており、いずれの項目も被検者の個人体験であり、+と-の感情が混在している。＜プラスとマイナスが雑多に混在する体験的中国＞のクラスターであると解釈できよう。

クラスター2は、+が4項目、-が1項目、0が2項目であることから、プラスイメージのクラスターであるといえよう。卒業後は旅行会社への就職が内定している被検者にとって、「強」力で「発展中」の中国の「川 大河」は有力な観光資源であると感じている。いつ起こるかも知れない「大地震」が経済や観光に及ぼす影響についても、イメージしている。また壮大な歴史に関与してきた「孔子」の思想は「眠れるしし（獅子）」を象徴していると考えられる。上記の観光資源を含めて、これからの発展への出発点となるのが「ドラ（銅鑼）」であろう。銅鑼は、現在では船の出帆の際の合図などに用いられることから、大きな船の浮かぶ中国の「川 大河」が、「ドラ」と結節したと考えられる。被検者はこのクラスターを「将来関係」と命名していることから、＜発展する中国との旅行業関係者としての関わりの始まり＞と解釈することができよう。

クラスターの結節：クラスター1を最終的に併合し、クラスター2と結節するのが「一人っ子政策」である。そして、一人っ子政策と直結する元カノとの交際は、被検者のこれまでの中国との関わりを象徴するものであろう。他方、「ドラ」は、旅行会社に就職してからの発展する中国との新たな関わりの出発を象徴するものである。それゆえ、「一人っ子政策」と「ドラ」が結節されることから、これまでの「プラスとマイナスが雑多に混在する体験的中国」から、「発展する中国への旅行関係者としての新たな関わりへの出発」への変化を感じていると推測できる。

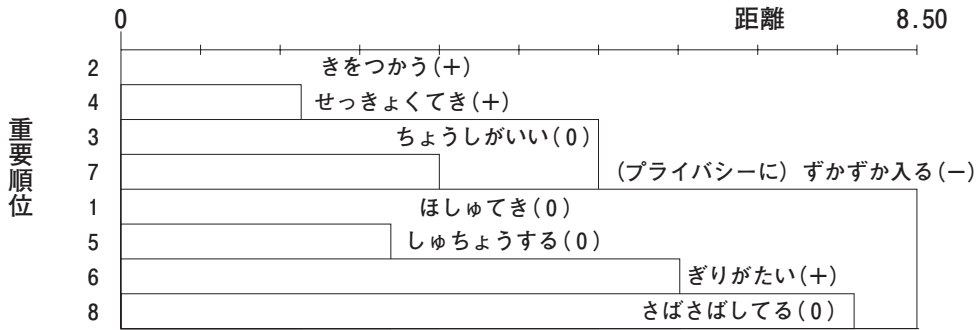


Figure 4 被検者Bの中国の人間関係イメージ

1) 左の数値は重要順位

2) 各項目の後ろの( )内符号は単独でのイメージ

### 「中国人の人間関係」についてのイメージ

単独での+ - イメージを見ると、第1クラスターは+が2項目、0が1項目、-が1項目であり、やや+であるが葛藤がうかがえる。第2クラスターは、+が1項目、0が3項目であり、距離を置いて感情を感じないで眺めているように思われる。全体としては、+が3項目、-が1項目、0が4項目で、感情を感じないで距離を置いている傾向があり、ややプラスであることが読み取れる。

クラスター1は「きをつかう」～「(プライバシーに) ずかずか入る」の4項目：私が出会った中国人の、僕との関係の中で得た+と-のイメージです。上2つ(の項目)が留学中に感じたことに対して、下の2つは日本で感じたことです。まあ、そんなくらい。下の2つに関して言えば、自分に得るところがあれば利用してやろうという感じがします。上の2つは、損得じゃなく、僕との関係を重視しているように思います。……まあ、そんなところです。

クラスター2は、「ほしゅてき」～「さばさばしている」の4項目：……そうですね…イメージとしては、中国人女性。僕が持っている彼女たちに対するイメージが入っていると思います。…はい、そんなところです。

クラスター1と2の比較：似ている点で言えば、両方とも中国人女性についてのイメージで、(クラスター1の)上2つは留学中に会った人のイメージが強く、下の2つは日本にいる間に出会った中国人のイメージが現れていると思います。違う点で言えば、下の方(クラスター2の4つとも)が、女性のイメージを強く現れていると思います。あとは、…特にはないです。

補足質問：きをつかう→やさしい、人のことを考える。せっきよくてき→話しやすい、向かってくるなどです。ちょうしがいい→軽い…めんどろ、ぐらいです。(プライベートに) ずかずか入る→煩わしい、しつこい、無礼など。ほしゅてき→固い、意志が強い、物足りない、ぐらいです。しゅちようする→対立する、自分を持っている、話が盛り上がる、などです。ぎりがたい→借りは返す、人を大切に作る、ぐらいです。さばさばしている→割り切れる、物足りない、ぐらいです。

### ＜被検者Bの中国人の人間関係イメージの総合的解釈＞

クラスター1での、上の2つの「きをつかう」と「せっきょくてき」は、「私（被検者B）が出合った中国人の、僕（被検者B）との関係の中で得たイメージ」であり、「損得じゃなく、僕との関係を重視しているように思えるもの」で、いずれも+である。これに対して下の2つは、「日本（の大学）で（中国人留学生から）感じたこと（終了後に確認）」で、「ちょうしがいい」が面倒で、「（プライバシーに）ずかずか入る」のがしつこく、煩わしく、礼を欠いている。「自分に得なところがあれば利用してやろう」という感じがするものであった。クラスター1は、損得抜きであれ利害関係が目的であれ、**＜プライバシーにまで踏み込み積極的に深く関わろうとする＞**人間関係構築の姿勢を示すと解釈できよう。

クラスター2では、被検者Bが中国人女性たちに感じるイメージが含まれており、意志が強く「ほしゅてき」で、自分（の意見）を持っており、「しゅちょうする」ことで対立もするが、話が盛り上がる。また、借りは返し、人を大切に、「ぎりぎりがたい」。「さばさばしてる」ことで、割り切れるが、物足りなさもある。人間関係の維持の仕方に関するもので、**＜自分の意見を主張するが、義理堅く、割り切ることもできる＞**ことを示すクラスターであるといえよう。

クラスターの結節：第1クラスターの「（プライバシーに）ずかずか入る」と第2クラスターの「さばさばしてる」が最終的な結合となることから、前者が構築される人間関係の深さ、構築の目標を象徴するものであり、後者は中国人における人間関係維持の秘訣（割り切れる）であり、人間関係ネットワーク拡充のために必要な相互補完であることを示唆すると解釈することができよう。

かな表記の連想反応：ところで、中国人の人間関係に関する被検者Bの連想語には特異な傾向がうかがえる。重要順7位の項目での「入る」を除けば、全てがかな（カナ）での表記である。これまでの同様の例で理由を尋ねたのでは、「かなの方が実際に感じている感覚に合う」との回答が多い。しかしながら、連想項目の一部にかな表記が出現するケースはときどき見られるが、ほとんど全ての連想項目というのは少ない。被検者Bに理由を尋ねると、かなの方が合うし、そうしなくてはられない感覚があった、とのこと。対象から距離を置いて感情に直面しないようにする自己疎隔傾向を指すことの多い0項目の多さ（全項目数の50%）とも関連しているのかも知れない。

### ＜被検者Bの2つのイメージの総合的解釈＞

被検者Bは、日本でも中国でもない第三国アメリカのニューヨークで、中国本土から来て被検者Bと同じ研修に参加していた中国人女性との交際を体験している。また、日本国内では中国人留学生たちとの交流を経験している。被検者Bが獲得した中国人の人間関係についてのスキーマは、これらの現実の交流から得られたものである。

他方の中国イメージは、ニューヨークで交際していた女性から聞いたこと、ニューヨークのチャイナタウンと子どもの頃の日本の中華街での目撃体験から構成された第1クラスターと、卒業後に就職する旅行会社との関わりから見た旅行先としての中国の第2クラスターとで、全体のスキーマが作りあげられている。過去の経験からだけでなく、自己の未来像（先取りされた未来のアイデンティティ）からの振り返り体験によってスキーマが発達すること

を示す興味深い知見である。

### 総合的考察と結論

スキーマは、対象の特徴について書かれた冊子を読んだり、人から伝え聞くだけでも獲得され、発達していく。また、対象とかがわりを持ち、知れば知るほど、その対象に関するスキーマは詳細となり、強固に組織化される。日常生活の中でのスキーマの獲得と発達を吟味する好個のテーマが、訪問したこともなく、わずかな知識しか持ち合わせない外国やその国の人間関係のイメージの形成・変容プロセスである。情報、資金、物資、人々の交流がグローバル化された今日では、観光ですら外国に行ったことのない人でも、世界の多くの国と人々の情報に接し、ネットを通じて、あるいは来日している外国人とかがわるようになっていく。そして、異文化適応に関する多くの研究が明らかにしているように、偏った情報や体験から偏見のステレオタイプが形成され、不適応な交流が生じることも少なくない。外国とその国の人々の人間関係のイメージの形成と変容は、スキーマの獲得と発達を吟味するための好個のテーマであるというだけでなく、直面する今日的な、早急に解明すべき課題であるといえよう。そこで本研究では、「中国（中華人民共和国）イメージ」と「中国人の人間関係イメージ」の2つをテーマとして、日本人で、中国を訪問したこともなく、中国人との交流経験も乏しいAと、中国を訪問したことはないが、中華街の中華料理を通じて子どもの頃から中国へのかかわりがあり、中国人との親密な交流経験のあるBの2名を被検者として、PAC分析を実施した。

被検者Aの場合には、中国についても、中国人の人間関係についても、関心や直接的なかわりがなく、それらのイメージはテレビでのサッカーなどのスポーツ観戦や漫画『三国志』から得られたものであった。

中国のイメージでは、クラスター1が、中国と日本の関係での印象で、特にサッカー選手のプレーとか応援する姿をテレビで観て感じたもので、＜過激で愛国心が強く、日本と仲が悪い国＞。クラスター2は、情報に基づかない個人的なものと報告されており、＜自分勝手に、気が強く、友好的でないが、パンダを外交の道具とする、良く知らない国＞のイメージである。クラスター3は、『三国志』に代表されるような＜歴史のある大きなスペクトルされる国＞である。

中国人の人間関係については、中国人と実際に交流した体験がなく、書籍や伝聞による知識体系もなく、信念が形成されていない。項目単独での＋イメージからは、相反する内容が想起される葛藤状態にあることが読み取れる。クラスター1は、＜度量の狭さと広さ、排他的と仲良しの相反的イメージ＞を、クラスター2は、＜必要悪としての、うわべだけの絆の強さ＞を、クラスター3は、＜不必要感から生じた無関心さ＞を示すものであった。Lucian (1992) や園田 (2001) によって記述されている、中国人との交流経験者に典型的に出現する、「人間関係ネットワーク構築への意欲とその利用」についての描写がない。

被検者Bは、中国訪問の経験はないものの、中国への関心が強く、中国人との親密な関わりの経験もある。中国のイメージについては、中国から来ていたインターシップ研修での仲間でもあり交際相手の女性から聞いたことと、ニューヨークのチャイナタウンと日本の中華

街での体験から混成されたクラスター1は、身近で贅沢にすら感じていた中華料理や日本人が最も参考にしていた国で尊敬する一面もあり、反面では、「フェイク」、「雑多」で、「汚い」「一人っ子政策」は、ネガティブ。＜プラスとマイナスが雑多に混在する体験的中国＞と感じている。卒業後は旅行会社への就職が内定している被検者にとって、中国には有力な観光資源があると感じており、クラスター2は＜発展する中国との旅行業関係者としての関わり始まり＞を示すものであった。

他方の中国人の人間関係のスキーマについても、現実の交流から得られたものである。被検者Bは、日本でも中国でもない第三国アメリカのニューヨークにおいて本国から研修に来ていた中国人女性との交際を体験している。また、日本国内では中国人留学生と交流を経験している。クラスター1は、損得抜きであれ利害関係が目的であれ、＜プライベートにまで踏み込み積極的に深く関わろうとする＞人間関係を構築しようとする姿勢を示す。クラスター2は、人間関係の維持の仕方に関するもので＜自分の意見を主張するが、義理堅く、割り切ることもできる＞であった。

上記のPAC分析の結果と考察は、クラスター構造について被検者自身が物語るという作業により、中国についてのスキーマと中国人の人間関係のスキーマが、テレビでのスポーツ観戦や漫画『三国志』を見たこと、子ども頃に中華街で食事をしたこと、あるいは当該国の人々と交流したこと、といった個人体験を通じて獲得・変容され、エピソードを含めた全体の体験が個人構造（個人態度）化されていることを、間主観的に了解できることが明らかにされたといえよう。

また、中国人とかかわったことがない被検者Aの場合には、中国イメージでは、クラスター1と2の比較段階で「何か、自分で勝手にそう思っているというか、情報が基になっていない」と報告したクラスター2の＜自分勝手に、気が強く、友好的でないが、パンダを外交の道具とする、良く知らない国＞が、他方の中国人の人間関係イメージでは、＜不必要感から生じた無関心さ＞のクラスターが出現したことが示すように、スキーマは不安定で、適合的とはいえないものであった。これに対して中国への関心が強く、中国人との交流体験をもつ被検者Bの場合には、中国イメージでは、＜発展する中国との旅行業関係者としての関わり始まり＞を感じるほど、中国人の人間関係では、相手の中国人が＜プライベートにまで踏み込み積極的に深く関わろうとする＞対応を示すまでの深いかかわりがあった。これらによりスキーマは発達し、信念体系と呼ぶことが可能なほど強固なものに変容したことを示していた。

以上の被検者AとBの結果を比較することで、①人は対象について知れば知るほど、その対象に関するスキーマを詳細に描写できるようになること、②スキーマは、発達するにつれて強固に組織化されること、③さらに知識が追加され蓄積されることで、完璧ではないけれども、次第に柔軟で適応的に対応できるものとなることが確認されたといえよう。また被検者Bによって、過去の経験からだけでなく、④自己の未来像（先取りされた未来のアイデンティティ）からの振り返り体験によってスキーマが再構成され発達することが明らかにされたことは興味深い。



## 引用文献

- Fiske, S. T. & Taylor, S. E. 1991 *Social cognition* (2nd. ed.) New York: McGraw-Hill.
- Lucian, W. P. 1992 *Chinese negotiation style: Commercial approaches and cultural principles*. New York, Quorum Books. (ルシアン W. パイ 園田茂人訳 1993 中国人の交渉スタイル：日米ビジネスマンの異文化体験 大修館書店)
- Markus, H. 1977 Self-schemata and processing information about the self. *Journal of Personality and Social Psychology*, **35**, 63-78.
- 箕浦康子 1997 文化心理学における＜意味＞ 柏木恵子・北山 忍・東 洋編 文化心理学：理論と実証 第3章 東京大学出版会, 44-63.
- 内藤哲雄 1997 PAC 分析実施法入門：「個」を科学する新技法への招待 ナカニシヤ出版
- 内藤哲雄 2002 PAC 分析実施法入門：「個」を科学する新技法への招待 [改訂版] ナカニシヤ出版
- 内藤哲雄 2008 PAC 分析を効果的に利用するために 内藤哲雄・井上孝代・伊藤武彦・岸 太一 (編著) 2008 PAC 分析研究・実践集1 序章 ナカニシヤ出版, 1-33.
- Naito, T. 2009 A schema of Japanese interpersonal relationships: An analysis using the personal attitude construct method. *Japanese Journal of Applied Psychology*, **34**, special edition, 65-71.
- 園田茂人 2001 中国人の心理と行動 日本放送出版協会
- Taylor, S. E. & Crocker, J. 1981 Schematic bases of social information processing. In E. H. Higgins, C. P. Herman, & M. P. Zanna (Eds.) *Social cognition: The Ontario Symposium* (Vol. 1, pp.89-134). Hilldale, NJ: Erlbaum.

(2010年11月12日受理, 11月18日掲載承認)